

# 日本自然保護協会 平成 19 (2007) 年度 事業報告

(平成 20 年 4 月 25 日評議員会同意、5 月 30 日理事会議決)

## ・財団法人の記録

### 1. 役員等の異動

- (1) 逝去 顧問 大井 道夫(平成 19 年 5 月 2 日)  
金田 平(平成 19 年 7 月 28 日)

### 2. 会員数 (平成 20 年 3 月 31 日現在)

- (1) 普通会員 ( )内は昨年度との差異  
個人会員 13,040 人 ( - 116 人)  
ファミリー会員 3,018 人 ( - 174 人)  
ユース会員 183 人 ( - 56 人)  
(2) 団体会員 610 口 / 312 団体 ( - 78 口 / - 25 団体)  
(3) 賛助会員 88 口 / 42 法人 ( + 3 口 / + 3 法人)  
(4) 寄付サポーター 781 件 ( - 82 件)  
(5) アクションサポーター 5,244 件 ( - 856 件)  
合 計 22,964 人・口

### 3. 会議

#### (1) 理事会

- ・ 5 月 30 日 定例理事会 / (議決) 平成 18 年度事業報告・決算
- ・ 2 月 27 日 臨時理事会 / (議決) 平成 19 年度補正予算
- ・ 3 月 27 日 定例理事会 / (議決) 平成 20 年度事業計画・予算、新評議員候補者の選任

#### (2) 評議員会

- ・ 5 月 30 日 定例評議員会 / (同意) 平成 18 年度事業報告・決算(案)
- ・ 2 月 19 日 書面表決 / (同意) 平成 19 年度補正予算(案)
- ・ 3 月 12 日 定例評議員会 / (同意) 平成 20 年度事業計画・予算(案)

#### (3) 委員会

- ・ AKAYA プロジェクト調整会議 (7/19、2/15)
- ・ AKAYA プロジェクト企画運営会議 (9/28、3/17)
- ・ 辺野古・大浦湾調査検討委員会 (9/5、1/31、3/13)
- ・ IUCN 日本委員会総会 (5/11、3/25)
- ・ IUCN 日本委員会運営委員会 (1/11、3/11)
- ・ ふれあい調査委員会 (4/20、6/21)
- ・ プロ・ナトゥーラ・ファンド助成運営・審査委員会 (4/11、8/9、9/3)
- ・ 自然観察指導員講習会講師会議 (2/2-3)

## 4. 意見書等の公表

### (1) 意見書・要望書等（代表者名で提出）

各事業で取り組んでいる問題に対し、5件の意見・提言を提出した。（12頁・別表1）

### (2) 声明・パブリックコメント等（主に業務担当責任者名で提出）

各事業で取り組んでいる問題に対し、13件の声明・パブリックコメント等を提出した。（12頁・別表2）

## 5. 委員の派遣

各事業で取り組んでいる問題・テーマに関わる23件の委員会等に役職員を派遣し、施策の転換や事業の見直しの検討に参画した。（12頁・別表3）

## 6. 印刷物の発行

### (1) 会報『自然保護』

・年6回／奇数月発行(第497号～第502号)、44頁(第500号のみ48頁)／各号約18,000部

### (2) 報告書・資料集等

・報告書97号『沖縄島北部東海岸における海草藻場モニタリング調査報告書』（7月、250部）

### (3) 書籍

- ・『自然の見方が変わる本』（12月、初版4,000部、168頁、山と溪谷社／事業実施積立金活用）
- ・『生態学からみた自然保護地域とその多様性保全』（3月、初版2,000部、253頁、講談社サイエンティフィック）

### (4) パンフレット等

- ・AKAYAプロジェクト総合パンフレット（3月、赤谷プロジェクト地域協議会・関東森林管理局と共同、5,000部）
- ・NACS-J自然保護寄付パンフレット（2回、計45,000部）
- ・冊子「カエルツボカビ症」注意・監視のお願い（5月、19,000部／自然保護助成基金助成）
- ・チラシ「カエルツボカビ症対策普及啓発資料」（3月、2,000部／自然保護助成基金助成）
- ・冊子 ふれあい調査マニュアル[暫定版]ふれあいマップをつくろう 市民参加の地域調査（7月、300部／三井物産環境基金2006年度第1回助成）
- ・パンフレット 市民参加の海岸植物群落調査 2007「砂浜の外来種をしらべよう」（8月、1,500部／日本財団助成）
- ・入会案内パンフレット・個人会員（92,000部）
- ・「NACS-J自然しらべ2007夏休み セミのぬけがらをさがせ！」調査マニュアル(80,000部)
- ・「NACS-J自然しらべ2007夏休み セミのぬけがらをさがせ！」結果レポート(21,000部)

## ・事業報告書

「平成 19 年度事業・予算の基本的な考え方」に沿って、以下の業務を実施した。

### 1. 総合プロジェクト

#### (1)AKAYA プロジェクト

林野庁関東森林管理局と締結した「『三国山地 / 赤谷川・生物多様性復元計画』推進のための協定書」(平成 16 年 3 月 30 日～平成 23 年 3 月 31 日)に沿い、生物多様性保全と持続的な地域社会づくりの実践モデル構築のため、各プログラムを実施した。

#### 自主活動

##### ・総合事務局の運営

「企画運営会議」「調整会議」等の意思決定会合の運営、プロジェクト事業に係る 7 つのワーキンググループの運営・参画を通じて、関係団体の協働による事業進行の枠組み構築を進展させた。また、講演・研修・現地視察・各種取材・催事協力等への対応や専用 web サイトの運営等を通じ、モデルプロジェクトとしての事例提供・周知、参画主体の開拓を図った。

##### ・環境教育拠点の形成（運営基盤整備積立金活用）

環境教育ワーキンググループを組織し、「いきもの村」「小出俣エリア」において、教材配置計画の立案と配置の実施を進めた。

月例の調査研究・環境管理実習「赤谷の日」(11 回開催)を中心に、苗畑跡地「いきもの村」を、教育研修活動の拠点にするための整備を進めた。

##### ・溪流環境復元計画の立案

溪流環境復元ワーキンググループに参加し、茂倉沢エリアにある治山ダムの一部を撤去し溪流環境の連続性を修復するための治山事業の具体的設計と、必要なモニタリング調査計画の立案を進めた。

##### ・旧三国街道フットパス網計画（アクセンチュア（株）Corporate Citizenship 助成）

赤谷プロジェクト地域協議会と協働し、旧三国街道をフットパス網として活用するための情報収集と現地調査、聞き取り調査を進めた。調査結果を住民参加ワークショップにより関係者と共有し、環境管理計画の検討を進めた。

#### 受託研究

##### ・「赤谷の森」生物多様性復元研究事業に係る業務の進行（赤谷・自然再生推進モデル事業 / 林野庁関東森林管理局委託）

平成 16 年度にまとめた「自然環境モニタリング基本方針」に則り、植生・大型猛禽類・小型ほ乳類等のモニタリング調査を行うとともに、自然林修復試験地のモニタリング調査を実施した。

#### (2)尾瀬プロジェクト

##### 委員会の参画と保全施策への提言

尾瀬関係の3つの委員会(尾瀬保護財団主催等)の運営への協力と委員参加による交渉・協議を継続した。至仏山について、保全管理対策の方向性を示した「至仏山保全基本計画」をもとに、生態系の保全を基本とした利用のあり方を提言し、関係者との基本合意をした。

### 国立公園拡大地域の調査研究テーマの提案

尾瀬国立公園新規編入区域においても、至仏山で用いた調査研究テーマ(既存公園施設の生態的評価等)を実施することを、会津駒ヶ岳・帝釈山・田代山の保全管理方針策定検討会で提案し、基本合意した。

## (3)小笠原プロジェクト

### 保全管理委員会の参画と保全施策への提言

森林生態系保護地域の自然保護・修復事業を計画的にすすめるための保全管理委員会(常設)及びアドバイザー会議に参画し、生態系としての場の管理が保全管理の原則であることの共通認識を醸成し、保全施策への提案を行った。保護林に無尽蔵に人が入り込んでいた状況を改善・整理するために、新たな利用ルール策定への協議を行い、生態系への影響が少ない歩道のみを利用制限することを合意した。

### 小笠原諸島保全管理の調査研究テーマの提案

環境省、地域社会ほか、関係団体とのコミュニケーションを拡大し、協議を進めた結果、地生態学的評価手法による保全管理の調査研究テーマを企画、実施する必要性を関係者間での基本合意を得た。

## 2. 保護研究事業

### (1)保護系プログラム

#### 海草藻場・干潟生態系保全

- ・辺野古・大浦湾 サンゴ礁・内湾生態系保全(自然保護助成基金助成)

5年継続してきた海草藻場モニタリング調査「ジャングサウオッチ」を地元調査グループへ実施体制を移すための協力支援を行うとともに、事業者による環境影響評価の進捗に対応して調査結果・意見書等を集約した報告書を発行し、シンポジウム等で活用した。大浦湾の底生生物やアオサンゴ群集の現地調査を行い、米軍普天間飛行場代替施設建設事業の見直しとサンゴ礁・内湾性生態系の保全を求める要請活動を続けた。

- ・沖縄島泡瀬干潟保全

海草藻場のモニタリング調査を実施し、調査結果に基づき、埋立工事の着手後に干潟の自然環境が変化している実態を指摘。埋立事業の環境監視委員会参画等を通じて埋立事業を見直し、泡瀬干潟の生物多様性保全を図るよう働きかけた。

また地元沖縄市が設置した埋立事業を精査し情報公開を行う東部海浜開発事業検討会議に対し、事業に関する意見を提出した。

#### 自然保護施策提言・監視

- ・「第3次生物多様性国家戦略」策定への提言

NACS-Jの活動や国際動向等を踏まえ、中央環境審議会小委員会等の場で課題や施策を具

体的に提言し、生物多様性保全に対し実効性のある国家戦略づくりを働きかけた。会報「自然保護」特集やマスコミを活用し、国家戦略策定の機会に広く社会から注目・監視の目を集める働きかけを行った。

・自然保護法制度のあり方・改善の提案

市民提案による野生生物保護基本法や生物多様性基本法の制定、鳥獣保護法等の関係法案の改定について、「野生生物保護基本法制定をめざす全国ネットワーク」加盟団体とともにロビイング活動を続けた。

・河川環境管理のあり方の提言（自然保護助成基金助成）

北海道・サンルダム問題や愛媛・山鳥坂ダム問題等について、地元団体への協力支援を行うとともに、マスコミへ記事企画を働きかけた。また、流域管理の観点から各地の河川の状況を視察調査し、状況把握を進めた。

・緊急企画「カエルツボカビ症対策」（自然保護助成基金助成）

カエルツボカビ症の国内侵入の判明に伴い、会員や野外活動者にむけた注意喚起のために冊子とチラシの作成、「カエルツボカビ勉強会」を全国3カ所で自然観察指導員連絡会等と連携のうえ実施し、最新の情報提供と野外での対策の普及啓発を行った。（11/3 広島 38名、12/8 熊本 45名、3/16 千葉 60名）

**その他保護問題**

地域 NGO からの要請にもとづく現地視察、政府機関等の施策検討会への参画、取材対応・催事協力等により、自然保護施策の実行に向けての働きかけや、各地の保護問題の状況把握および交渉活動を行った（12～14頁・別表1、2、3、4）

行政研修・大学講義等への役職員の派遣（環境省、林野庁、水資源機構他）、修学旅行による中高生の訪問学習の受け入れ等、各方面へ自然保護の解説を行った。

**情報整理・活用**

図書等各種資料の登録・分類・整理を行い、「自然保護ライブラリー」のデータベースおよび検索システムの整備を進めた。

**国際**

・IUCN 日本委員会の運営

IUCN（国際自然保護連合）の国内会員23団体からなるIUCN日本委員会の事務局として、会議・ホームページ等の運営、レッドリストの普及冊子の製作、寄付支援の呼びかけ等を行った。

・2010年生物多様性条約締約国会議に向けた取り組みの検討（運営基盤整備積立金活用）

「第3次生物多様性国家戦略学習会」（9/27、NACS-J他共催、東京・T's 東宝ビル別館、約60名参加）の開催や「生物多様性 COP10・NGO フォーラム」（3/16、NACS-Jほか共催、愛知・名古屋国際センター）の開催等を通じて、生物多様性国家戦略や生物多様性条約の重要性を訴え、関心を高めるとともに、COP10 開催候補地の NGO との協力関係を築いた。

・国際生物多様性情報収集（環境省請負）

「第4回 IUCN アジア自然保護フォーラム」（9/11-14、ネパール・カトマンズ）、「生物多様性条約/第2回保護地域作業部会」（2/11-15、イタリア・ローマ）、「生物多様性条約/第13回科学技術助言補助機関会合」（2/18-22、イタリア・ローマ）への出席等により、生物

多様性保全に関する国際情報を収集した。

- ・ IUCN 世界保護地域委員会東アジア会合支援業務（環境省請負）

IUCN/WCPA-EA の運営委員会に出席し、東アジアの保護地域の情報収集と第 6 回・第 7 回の WCPA 東アジア会合の準備状況について情報を収集した。

## (2)研究系プログラム

### 植物群落 RDB モニタリング

- ・ 市民参加の海岸植物群落調査（日本財団助成）

4 年間にわたり、1,202 人が参加した全国の調査結果の集計・解析を行った（37 道府県 1,308 件の海岸データ）。また、8-10 月の期間、追加調査として砂浜の外来種調査を実施し、集まった 352 件のデータ集計を行った。調査・解析結果と、これに基づきとりまとめた海岸植物群落を保全するための提言を Web ページに公表した。国土交通省が募集した「中長期的な展望に立った海岸保全検討会中間とりまとめ」に対して意見を提出した。

### 里やま保全研究

- ・ 生態系総合モニタリング調査（地球環境基金助成）

専用 web サイトのシステム化とリニューアルを進め、情報の書き込みや内容修正等が容易にできるよう改良した。また、昨年度に引き続き調査の学習会を 2 回開催し（11/10-11：福岡県九州大学伊都キャンパス、3/8-9：千葉県谷田・武西地区、各約 30 名参加）を開催し、市民による身近な地域の自然のモニタリング手法とその結果を用いた保全対策作りの普及を図った。

- ・ モニタリングサイト 1000 里地調査

（重要生態系監視地域モニタリング推進事業 / 環境省生物多様性センター請負）

昨年度に引き続き 12 ヶ所のコアサイト（北海道夕張郡八軒山計画地、北海道斜里郡小清水町小清水原生花園、岩手県一関市花泉町樺ノ沢、山形県鶴岡市天狗森、茨城県土浦市穴塚の里山、長野県飯田市たねほさんのハナノキ湿地、福井県敦賀市中池見湿地、大阪府枚方市穂谷の里山、兵庫県淡路市黒谷の棚田、島根県大田市三瓶山北の原、大分県竹田市久住草原、鹿児島県始良郡蒲生町漆の里山）で調査を実施するとともに、コアサイトの候補地について検討を行った。また来年度からの実施に向けて、一般サイトの企画作成と募集を行った。

### ふれあい研究

- ・ 市民参加の「人と自然とのかかわり調査」手法の研究（三井物産環境基金助成）

市民参加のふれあい調査手法として、「ふれあいマップづくり」をとりまとめ、マニュアルを作成し、ワークショップを開催して試行調査を実施した。また、GIS を活用したふれあい調査システムを構築し、ふれあいデータの入力、表示の手法を検討した。

### 生態系管理手法研究

- ・ 屋久島世界遺産地域における生態系の動態把握と保全管理手法に関する調査（環境省九州地方環境事務所委託）

屋久島の世界遺産地域において気象観測、植生、動物（ヤクシカ・哺乳類相・昆虫類相）、地形・地質に関する調査を実施し、統合的な解析を実施した。

- ・ 綾の照葉樹林プロジェクトエリアにおける調査・研究基本構想計画策定調査（九州森林管理局

委託)

綾の照葉樹林プロジェクトエリア内で実施すべき調査研究項目について検討を行い基本構想として提案を行った。

- ・小笠原国立公園南島植生回復 その他調査 (東京都小笠原支庁委託)

小笠原諸島南島において、利用経路周辺地域の植生変化や土壌浸食状況についてモニタリング調査を実施した。また、外来種駆除事業に合わせた訪花昆虫類、開花フェノロジー調査を実施し、対象外来植物に関する提案を行った。

#### SISPA・戦略的保全地域情報システムの構築 (運営基盤整備積立金活用)

SISPA ワーキンググループを開催し、日本における重要な自然環境を抽出するための手法について検討した。また、自然環境、保護地域に関わる各種データを GIS データ化し、SISPA ウェブサイトに登録した。

#### 書籍『生態学からみた自然保護地域とその多様性保全』の出版

全国の保護地域を通覧し、制度の歴史・しくみ・課題等を明らかにし、一般書籍として出版した。発行・講談社サイエンティフィク。

#### 研究・活動支援

- ・プロ・ナトゥーラ・ファンド助成 (財)自然保護助成基金との共同事業)

平成 19 年度 (第 18 期) 助成の募集・審査を行い、33 件の国内外の研究・活動グループに計 2,680 万円の資金支援を行った (15 頁・別表 5)。

平成 17 年度 (第 16 期) 助成の成果報告書を作成し、平成 18 年度 (第 17 期) 助成の成果報告会を開催 (12/8、東京四谷・主婦会館、約 100 名参加) するとともに、専用 web サイトに助成成果の報告を追加公開した。

### 3. 普及広報事業

#### (1) 広報系プログラム

##### 会報『自然保護』の発行

年 6 回 (第 497 号 ~ 第 502 号) 各約 18,000 部を編集・製作した。各部と連携し「生物多様性」「地球温暖化」を中心に特集を制作。創刊 500 号は通常号よりカラー頁 4 頁を増やし、同号に支援企業・団体の協賛によるプレゼントの応募ハガキを同封してアンケートを回収し、多くの読者反応を得た。

[各号特集]・夜のフィールドを知る (第 497 号、5/6 月号)

- ・「生物多様性国家戦略」への提言 (第 498 号、7/8 月号)
- ・日本の自然が語る地球温暖化の兆候 (第 499 号、9/10 月号)
- ・生物多様性を支えるライフスタイル (第 500 号、11/12 月号)
- ・地域自然の個性をビジュアル化する (第 501 号、1/2 月号)
- ・溪流環境の修復を考える (第 502 号、3/4 月号)

##### 会報 500 号発行記念書籍『自然の見方が変わる本』の出版 (事業実施積立金活用)

会報の創刊 500 号を記念し、一般書籍として『自然の見方が変わる本』を出版した。会報の過去 5 年間の掲載から「自然の見方」にこだわった記事を抜粋再編集した。一般書店販

売とともに、出版社の(株)山と溪谷社の協力で会員には期間限定で特別割引販売を行った。

#### **NACS-Jホームページの運営（運営基盤整備積立金活用）**

広報ツールとしてアクセシビリティの向上、運用ルールの整備を目的に、外部専門家を含む Web ワーキング会議を開催した。新規特定業務の内部サイトページ、会員専用ページの制作を継続。グローバルナビゲーションの試験制作、ページ量産の試験外注等を行った。昨年度比で全ページの年間アクセス数は 10 万件程増加した。（全ページアクセス年間計 1,600,598PV / 日平均 4,371PV / トップページアクセス日平均 538PV）。

### **(2)環境教育系プログラム**

#### **NACS-J 自然観察指導員の養成**

##### ・NACS-J 自然観察指導員講習会

指導員連絡会・自治体・学校・企業との共催により、17 回の講習会を開催した。（16 頁・別表 6、今年度登録者 849 名、初回以降総登録者 23,670 名）

「講習会講師会議」の開催等を通じて、講師の情報共有と講習会の内容充実を図った。

##### ・自然観察指導員活動のフォローアップ

自治体との共催により、3 回の研修会を実施した（16 頁・別表 7）。また、各地指導員連絡会主催の総会・地域ブロック会議等への出席、催事への講師派遣、メールマガジン「しどろいん徒然草」の配信等を通じて、指導員活動のフォローアップを行った。

#### **環境教育一般**

##### ・「自然しらべ 2007 夏休み セミのぬけがらをさがせ！」

毎年テーマ（観察対象）を 1 つ選び、全国で同時期に同じものをみる市民参加型観察会企画として、今回は「セミのぬけがら」をテーマに実施した。

（通算 12 回目、主催：NACS-J・読売ウイークリー・キッズ goo（NTT レゾナント）、学術協力：槐真史（厚木市郷土資料館学芸員） 監修：林正美（埼玉大学教育学部教授）・浜口哲一（元平塚市博物館館長）、協賛：(株)サニクリーン・(株)ヴェレダジャパン、誌面協賛：9 誌、アシスタントスタッフ：損保ジャパン派遣インターン生を含む 11 名、実施期間：7/1～8/31、参加人数：のべ 19,871 名、収集場所：5,185 ヶ所）

##### ・外部事業への参加・協力

催事パネラー・学習会講師・観察会リーダー・原稿執筆・取材対応等への職員・講師等の派遣、人材の紹介、後援等の協力を行った（13 頁・別表 4）。

### **(3)個人会員拡大系プログラム**

#### **対象層別参加型プログラムの開催**

##### ・「リアルネイチャー・キャリアセミナー」

学生向け「リアルネイチャー・キャリアセミナー'07『自然を守る仕事』」を開催した。協賛金を参加者の会費にあて参加者全員をユース会員として登録。参加者にボランティア機会の提供等を行い、会員継続の促進を図った。（11/24、立教大学、120 名参加、協賛：(株)ブリヂストン、協力：立教大学 ESD 研究センター、立教大学キャリアセンター、運営協力：エコ・リーグ(全国青年環境連盟)）

##### ・各種事業の PR 機会を活用した会員募集告知（運営基盤整備積立金活用）



雑誌等に無料広告スペースの提供を働きかけ、「自然しらべ」の告知機会等を活用して会員募集メッセージを掲載した。

#### 印刷物の活用ほか

- ・会員への入会パンフレット配布の協力依頼  
会員・自然観察指導員を中心に、入会案内パンフレットの配布協力を呼びかけた（協力者673名）
- ・パンフレットの配布等による入会勧誘  
各種施設へのパンフレット設置協力依頼（716ヶ所）、退会者への再入会案内DMの送付、「自然しらべ」の参加者・問合者等への入会案内DMの送付、携帯サイトの運営等を通じて入会を呼びかけた。
- ・外部キャンペーン企画等への協力による寄付拡大  
セミの鳴き声の着うたダウンロード、じゃらん.netでの利用者のポイント、Yahoo ジャパンの壁紙販売、映画「蟲師」キャンペーン等、外部からの寄付企画を受け入れた。

### 4. 会員管理・サービス事業

#### 会員管理

- ・会員数の維持・拡大  
個人会員の会費自動引落の利用促進や賛助会員企業への訪問等により、会員登録の継続を呼びかけ、個人会員数の維持と賛助会員数の拡大を図った。団体会員は、市町村合併等に伴い、依然として地方自治体を中心に会員数の減少傾向が続いている。
- ・一般寄付の拡大  
個人からの募金寄付や遺贈、企業からの商品販売・催事等を通じた寄付キャンペーン企画の受け入れ等により、一般寄付の拡大を図った。

#### 会員サービス

主催催事での直接販売や合資会社 狼森（おいのもり）への委託による通信販売を通じて、オリジナル刊行物や会報『自然保護』バックナンバーを頒布した。  
自然に関係する書籍の注文等、賛助会員企業による会員宛DMの送付を1件受け付けた。

### 5. 顕彰・基盤整備事業

#### 顕彰

日本自然保護協会沼田眞賞の推薦募集・選考を行い、第7回授賞者を佐藤謙氏（高山植生の研究に基づく北海道の自然保護への貢献）に決定し、授賞式及び記念講演会を開催した（12/2、於：アルカディア市ヶ谷、約70名参加）

#### 基盤整備

- ・労務・人事諸規程の改定（運営基盤整備積立金活用）  
昨年度の新管理職制度・事務局内組織の見直しに伴い、事務局分掌規程、就業規則、賞罰規程、給与規程、出張規程、人事考課規程の改訂を行ったほか、管理職研修を実施した。

以上

### 別表1 . 意見書・要望書等の提出 (協会代表者名で提出、カッコ内は提出日・提出先)

- ・対象狩猟鳥獣の捕獲等の禁止又は制限を定めることに係る意見書(4/20、環境大臣)
- ・「エコツーリズム推進法(案)」の審議に関わる意見書(5/24、各政党環境・観光部会部会長)
- ・普天間飛行場代替施設建設事業に係る環境影響評価方法書に対する環境保全の見地からの意見書(9/20、沖縄防衛局長)
- ・那覇港(浦添ふ頭地区)公有水面埋立事業に係る環境影響評価準備書に対する意見(12/13、浦添市土地開発公社)
- ・「普天間飛行場代替施設建設事業に係る環境影響評価方法書に対する追加・修正資料」への環境保全の見地からの意見書(2/21、沖縄県知事・沖縄県環境影響評価審査会会長)

### 別表2 . 声明・パブリックコメント等の提出 (主に業務担当者名で提出、カッコ内は提出日・提出先)

- ・「生物多様性国家戦略の見直しに関する懇談会」における論点等に対する意見(4/2、環境省環境計画課)
- ・第3次生物多様性国家戦略(案)に対する意見(10/14、環境省環境計画課)
- ・「第3次生物多様性国家戦略の閣議決定」に際してのコメント(11/27)
- ・「民主党・生物多様性基本法案(仮称)」に対する意見(2/14、民主党ネクスト環境大臣)
- ・鳥獣の保護及び狩猟の適正化に関する法律施行の一部改正(案)に関する意見(4/20、環境大臣)
- ・「鳥獣による農林水産業等に係る被害の防止のための施策を実施するための基本的な指針(案)」についての意見(1/31、農林水産省農産振興課)
- ・今後の国立・国定公園のあり方に関する意見(4/27、環境省国立公園課)
- ・緑自然機構談合等の再発防止に関する意見(7/11、緑資源機構談合等の再発防止のための第三者委員会)
- ・東京都第10次鳥獣保護事業計画素案についての意見(8/24、東京都)
- ・知床・多利用型統合的領域管理計画(原案)に対する意見(9/28、北海道)
- ・有明海および諫早湾の自然と漁場の再生を求めるとして - 土地改良事業完工式典に際して - (11/20、WWFジャパン・日本野鳥の会と共同)
- ・「普天間飛行場代替施設建設事業に係る環境影響評価方法書」の撤回を求めるコメント(12/21)
- ・「中長期的な展望に立った海岸保全検討会中間とりまとめ」に対する意見(1/23、国土交通省港湾局海岸・防災課)

### 別表3 . 委員の派遣 (カッコ内は要請主体)

- ・エコツーリズム推進に関する基本方針検討会(環境省・国土交通省・農林水産省・文部科学省、新規)
- ・風力発電施設と自然環境保全に関する研究会(環境省・資源エネルギー庁、新規)
- ・指定動物保護対策検討会(環境省、継続)
- ・中城港湾泡瀬地区環境監視委員会(内閣府沖縄総合事務局、継続)
- ・会津駒ヶ岳・帝釈山・田代山景観保全管理方針策定検討会(環境省関東地方環境事務所、新規)
- ・尾瀬国立公園協議会(環境省関東地方環境事務所、新規)
- ・日光国立公園尾瀬地域・至仏山保全対策会議(尾瀬保護財団、継続)
- ・地域連携による保護林等の保全・管理のあり方に関する検討会(林野庁、新規)
- ・平成19年度森林・林業基本対策推進事業(里山林再生戦略の確立に向けた基礎調査)に係る検討委員会(林野庁、新規)
- ・生物多様性検討委員会(林野庁北海道森林管理局、新規)

- ・にしんの森再生プロジェクト委員会（林野庁北海道森林管理局、新規）
- ・十勝川源流部更生プロジェクト委員会（林野庁北海道森林管理局、新規）
- ・希少野生生物の保護と森林施業等との調整に関する検討委員会（林野庁関東森林管理局、継続）
- ・奄美群島森林生態系保護地域設定委員会（林野庁九州管理局、新規）
- ・沖縄本島北部国有林の取り扱いに関する検討委員会（林野庁九州森林管理局、継続）
- ・小笠原諸島森林生態系保護地域保全管理委員会アドバイザー会議（林野庁関東森林管理局、新規）
- ・小笠原兄島ノヤギ排除検討委員会（東京都、継続）
- ・野生生物保護対策検討会 アカガシラカラスバト保護増殖分科会（環境省、新規）
- ・千葉県特定外来生物（アライグマ）対策検討会（千葉県、継続）
- ・東京都シカ保護管理計画検討会（東京都、新規）
- ・平成 19 年度森林・林業基本対策推進事業「里山林再生戦略の確立に向けた基礎調査」に係る調査研究委員会（財）林政総合調査研究所）
- ・八ヶ岳高原海の口自然郷植生管理検討委員会（㈱八ヶ岳高原ロッジ、継続）
- ・環境教育アワード検討委員会（特定非営利活動法人 ECOPLUS、新規）

#### 別表4 . 催事等への後援・協力・職員派遣等 （カッコ内は主催者・開催日）

- ・日米カキ礁シンポジウム（同実行委員会、4/8）
- ・シンポジウム「サンルダム問題を考える」（天塩川の自然を考える会、4/14 - 15）
- ・平成 19 年度 絶滅危惧植物展（日本植物園協会、4/1 - 1/31）
- ・干潟・湿地を守る日 2007（日本湿地ネットワーク、4/1 - 5/31）
- ・生態リスクマネジメントのこれから～21世紀 COE プログラム（横浜国立大学大学院、4/21）
- ・第 81 回 国展（国画会、5/2 - 6/10）
- ・第 18 回全国トンボ市民サミット赤とんぼ大会（同実行委員会、5/12 - 13）
- ・KiNOA 定例会（KiNOA、5/26 - 3/2）
- ・第 24 回自然は友たち わたしの自然観察路コンクール（国立公園協会、6/1 - 11/30）
- ・カエルツボカピフォーラム 2007（麻布大学、6/10）
- ・ふるさと親子自然観察会（愛知県自然観察指導員連絡協議会名古屋支部、6/10）
- ・彩の国環境地図作品展（同実行委員会、6/1 - 3/31）
- ・中・四国環境教育ミーティング 2007（中・四国環境教育ネットワーク、6/22 - 24）
- ・自然観察会 - セミの抜け殻調査 2007 - （帝人（株）CSR 室、7/1 - 8/31）
- ・ap bank fes'07（有限責任中間法人 AP バンク、7/13 - 16）
- ・第 10 回有明海・不知火海フォーラム（同実行委員会、7/14）
- ・ゆんたく集合 辺野古・大浦湾の自然と生物たち-事前調査が環境を破壊する-（辺野古・大浦湾 NGO 会議、7/15）
- ・三番瀬大観察会（同実行委員会、7/16）
- ・平成 19 年度夏休み子供自然観察教室（利根沼田自然を愛する会、7/22）
- ・世界の宝、泡瀬干潟を守り生かそう!! シンポジウムとコンサート（泡瀬干潟を守る連絡会、8/3）
- ・「川を流域住民にとりもどすための全国シンポジウム」吉野川汽水域バスツアー（とくしま自然観察の会、8/12）

- ・第 6 回ヒメボタルサミット in 愛知 (同実行委員会、8/18)
- ・第 8 回ライチョウ会議長野大会 (同実行委員会、8/18 - 19)
- ・“自然観察からはじまる自然保護” 自然観察会の研修会 (とくしま自然観察の会、9/23)
- ・自然公園法 50 周年記念シンポジウム「美しい日本の自然」(環境省 自然環境局 国立公園課、10/13)
- ・第 14 回「クマを語る集い」IN 山形 (同実行委員会、10/20)
- ・EARTH VISION 第 16 回地球環境映像祭 (アース・ビジョン組織委員会事務局、10/25 - 3/9)
- ・多摩川河口の自然を考えるシンポジウム (日本野鳥の会 神奈川支部、10/27)
- ・学会 20 周年記念事業「田んぼ国際環境教育会議 2007」(日本環境教育学会、10/29)
- ・第 28 回「東北自然保護の集い」岩手県大会 (同実行委員会、11/10 - 11)
- ・第 6 回千葉県自然観察指導員フォローアップ研修会 (千葉県自然観察指導員協議会、12/1 - 2)
- ・第 1 回アジア・太平洋水サミットオープンイベントシンポジウム (おおいた生物多様性センター、12/2)
- ・「すばらしき泥！泥干潟」講演会 (同実行委員会、12/8)
- ・わくわくアートコンテスト <日本自然保護協会賞> (高尾の森わくわくビレッジ、12/15)
- ・アカガシラカラスバト保全計画づくり国際ワークショップ (同実行委員会、1/10 - 13)
- ・ウインタープログラム研修会 (新潟県立浅草山麓エコミュージアム事務局、1/12 - 13)
- ・第 13 回オオタカ保護シンポジウム (日本オオタカネットワーク JAWG、1/20)
- ・三番瀬再生国際フォーラム (千葉県、1/29)
- ・フォーラム「環境市民団体の今と未来を語り合おう」(新潟 NPO 協会、2/2 - 3)
- ・環境教育関東ミーティング (国立赤城青少年交流の家、2/9 - 11)
- ・チョウ類保全シンポジウム - ギフチョウ・ヒメギフチョウ - (日本チョウ類保全協会、2/9 - 11)
- ・第 7 回草津市子ども環境会議 (同実行委員会、2/9)
- ・モニタリング講座「長期モニタリングの意義と目的」(山の自然学クラブ、2/16)
- ・シデコブシ講演・観察会「地域から市民の視点で考える 生物多様性保全」(渥美自然の会、3/1)
- ・2008 九州環境教育ミーティング in 鹿児島 (同実行委員会、3/1 - 3)
- ・シンポジウム「地球温暖化と生物多様性」(生物多様性 JAPAN、3/8)
- ・里山シンポジウム「八千代と里山」分科会・講演会 生命をはぐくむ谷津・里山 (千葉県八千代市、3/16)
- ・生物多様性 COP10・NGO フォーラム (同実行委員会・IUCN、3/16)

別表5 . プロ・ナトゥーラ・ファンド 第 18 期助成先

(万円)

テーマ/国内グループ名・海外申請者名	助成額
<b>(1) 国内研究助成</b>	
有明海再生を目指した諫早湾干拓堤防周辺海域の採泥・採水調査(継続)/諫早湾保全生態学研究グループ	76
北海道根釧台地湿原群保全のための湿原植生と発達史の研究/根釧台地湿原群自然史研究会	110
超音波テレメトリー法を使った琵琶湖の固有種ニゴロブナの生態研究(継続)/琵琶湖漁業を考える会	100
高山植生の長期モニタリングサイトの設置/山の自然学クラブ	99
八郎潟干拓地(秋田県大潟村)におけるツツイトモの保全について/秋田自然史研究会 水草グループ	77
過栄養湖である宮島沼における冬期湛水水田による水質改善の試み/宮島沼の会	60
岐阜県におけるニホンカモシカとニホンジカとの種間関係の解明を目的とする緊急調査/岐阜県ニホンカモシカ研究会	100
大阪地域における蘚苔類・菌類レッドリスト試作のための基礎研究/大阪蘚苔類・菌類レッドリスト研究会	50
<b>(2) 国内活動助成</b>	
多摩川河口の自然を考えるシンポジウム開催/日本野鳥の会神奈川支部	30
赤城山ヒメギフチョウの保全のための緊急対策/赤城姫を愛する集まり	60
市民参加による、ジュゴン生息域の海草藻場のモニタリング調査/シーグラスウォッチ・ジャパン	85
ヤクタネゴヨウの調査研究・保護増殖・普及啓発活動/屋久島・ヤクタネゴヨウ調査隊	90
香川県産ニッポンバラタナゴの系統保存のための保護池造成/かがわたナゴ倶楽部	80
イトウの保護/道東のイトウを守る会	55
日本産絶滅危惧種のための飼育繁殖個体群管理セミナー/CBSG-Japan	130
長野県飯田市のハナノキが生育する湿地におけるモニタリングコースの保全/はなのき友の会	23
ツシマヤマネコ交通事故対策チームによる動物交通事故監視活動/ツシマヤマネコ交通事故対策チーム	50
中部山岳国立公園立山地区の自然保護に関する利用者の意識調査/富山県地方自治研究センター 環境部会	55
日本語版造礁サンゴ同定マニュアルの作成/沖縄リーフチェック研究会	70
林床植物の生活史研究を基礎とした低地林保護のための環境教育プログラムの開発/子供達に身近な自然の大切さを伝える会	85
全国の在来タナゴ類の保全技術に関するシンポジウムの開催/NPO 法人日本国際湿地保全連合	70
新規外来生物オオタナゴ拡散防止のための啓蒙活動/土浦の自然を守る会	60
国指定天然記念物「犬吠埼の白亜紀浅海堆積物」と銚子海岸の植物生態と植物相に関する啓蒙のためのパンフレットの刊行/「銚子の自然保護を知る会」パンフレット刊行会	80
堆砂垣と植生保護を組み入れた海岸砂浜保全活動(継続)/NPO 法人 表浜ネットワーク、堆砂垣・植生グループ	30
人々のくらしと河口及び沿岸域の自然環境とのかかわりに注目して吉野川河口の保全にむけて、シンポジウムの開催および報告書の作成/とくしま自然観察の会	65
環境学習としての海藻おしぼりの普及/海藻おしぼり協会	60
<b>(3) 国内長期事業助成</b>	
絶滅の危機が迫りつつある西中国山地のツキノワグマ孤立個体群保護に資する研究と教育普及事業/広島フィールドミュージアム	160
兵庫県豊岡市円山川中下流域に生息するコウノトリの採食生態/コウノトリ研究会	150
<b>(4) 海外助成</b>	
ブータンヒマラヤ Gedu-Drala 地域の常緑広葉樹雲霧林における人為的インパクトの評価	150

と生物多様性の保全に関する研究 / Pema Wangda	
ネパールにおける住民のハゲワシ保護意識啓発プロジェクト / Bishnu Prasad Shrestha	70
マレーシア・サバ州、クリアス半島のテングザルの保全 / Henry Bernard	100
地域スケールアプローチによる次世代の植物学者養成トレーニング / James V. LaFrankie	100
重慶都市域における残存常緑広葉樹林の構造・動態および保全戦略 / 楊 永川	100
	計 33 件 2,680

別表6 . NACS-J 自然観察指導員講習会

NO	開催日	開催地	会場	共催団体	登録者数
394	5/18-20	秋田県	田沢湖スポーツセンター	秋田県自然保護課	52
395	5/25-27	神奈川県	神奈川県立 芦ノ湖キャンプ村	神奈川県自然観察指導員連絡会	48
396	6/1-3	東京都	八王子セミナーハウス	帝人(株)	47
397	6/22-24	兵庫県	兵庫県立淡路景観園芸学校	兵庫県立淡路景観園芸学校	40
398	6/29-7/1	山口県	国立山口徳地青少年自然の家	帝人(株)	33
399	7/14-16	神奈川県	富士ゼロックス(株)塚原研修所	富士ゼロックス(株)	60
400	8/10-12	京都府	京都精華大学	京都精華大学	61
401	8/24-26	東京都	板橋区立リサイクルプラザ、荒川河川敷	板橋区立エコポリスセンター	56
402	9/7-9	京都府	京都御苑、加茂川	自然観察指導員京都連絡会	60
403	9/15-17	熊本県	国立阿蘇青少年交流の家	自然観察くまもと	40
404	9/22-24	静岡県	日本 YMCA 同盟国際青少年センター東山荘	(株)東芝	56
405	9/28-30	北海道	酪農学園大学	酪農学園大学	36
406	10/6-8	広島県	七塚原自然体験活動研究センター	広島県自然観察指導員連絡会	55
407	10/19-21	三重県	三重県立熊野古道センター「伊勢路」	自然観察指導員三重連絡会	50
408	10/26-28	千葉県	千葉市ユースホステル	江戸川大学、東邦大学	52
409	11/9-11	愛知県	岡崎市営国民宿舎桑谷山荘	愛知県環境調査センター	61
410	11/23-25	兵庫県	六甲山 YMCA	自然観察指導員兵庫連絡会	47

別表7 . 自然観察指導員フォローアップ研修会

NO	開催日	テーマ	会場	共催団体	参加者数
142	7/7-8	佐賀クリーク保全/セルフガイドボードを作ろう	ひょうたん島公園	佐賀県	14
143	9/15-16	汽水における自然観察手法研修	サン・レイク(県立青少年の家)	島根県	24
144	11/17-18	リスクマネジメント研修	フレンドシップ・ハイツよしみ	埼玉県	39